



Chapter 10

メール通知／レコード変更履歴 ／機能抑制

このチャプターでは、以下の機能についてご説明します。

- ・メール通知機能
レコードが作成/更新されたタイミング、日付時刻フィールドに入力された日時を基準に指定したタイミング、レコードにコメントが書き込まれたタイミングで、ユーザーにメールで通知する機能です。
- ・レコード変更履歴
レコードに加えられた変更の履歴や、操作内容などを、画面・ログファイルの両面で記録できる機能です。
- ・機能抑制
レコードを外部出力する機能を利用不可にし、セキュリティを高めることができます。

Chapter 10：メール通知／レコード変更履歴／機能抑制

- ◆ メール通知機能
 - ・ レコードの作成や更新をメールで通知する（レコード操作通知）
 - ・ 期限を知らせるメールを送信する（リマインダー通知）
 - ・ 通知メールの内容をカスタマイズする
 - ・ レコードコメントが書き込まれたことをメールで通知する
- ◆ レコード変更履歴の保存
- ◆ レコード操作ログ
- ◆ 機能抑制の設定

株式会社ジャストシステム

メール通知機能

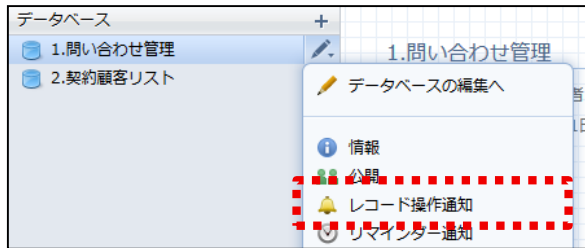
ユーザーへのメール通知

UnitBaseでは様々な操作やタイミングをきっかけとして、ユーザーにメール通知を行う機能を備えています。

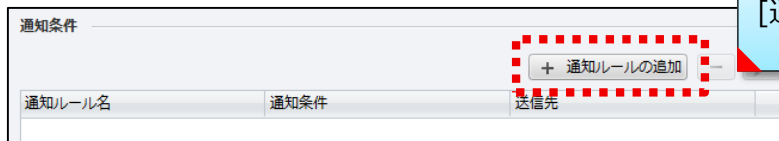
※あらかじめ送信メールサーバーの設定をしておく必要があります。（初期設定を参照）

□ レコードの作成や更新をメールで通知する（レコード操作通知）

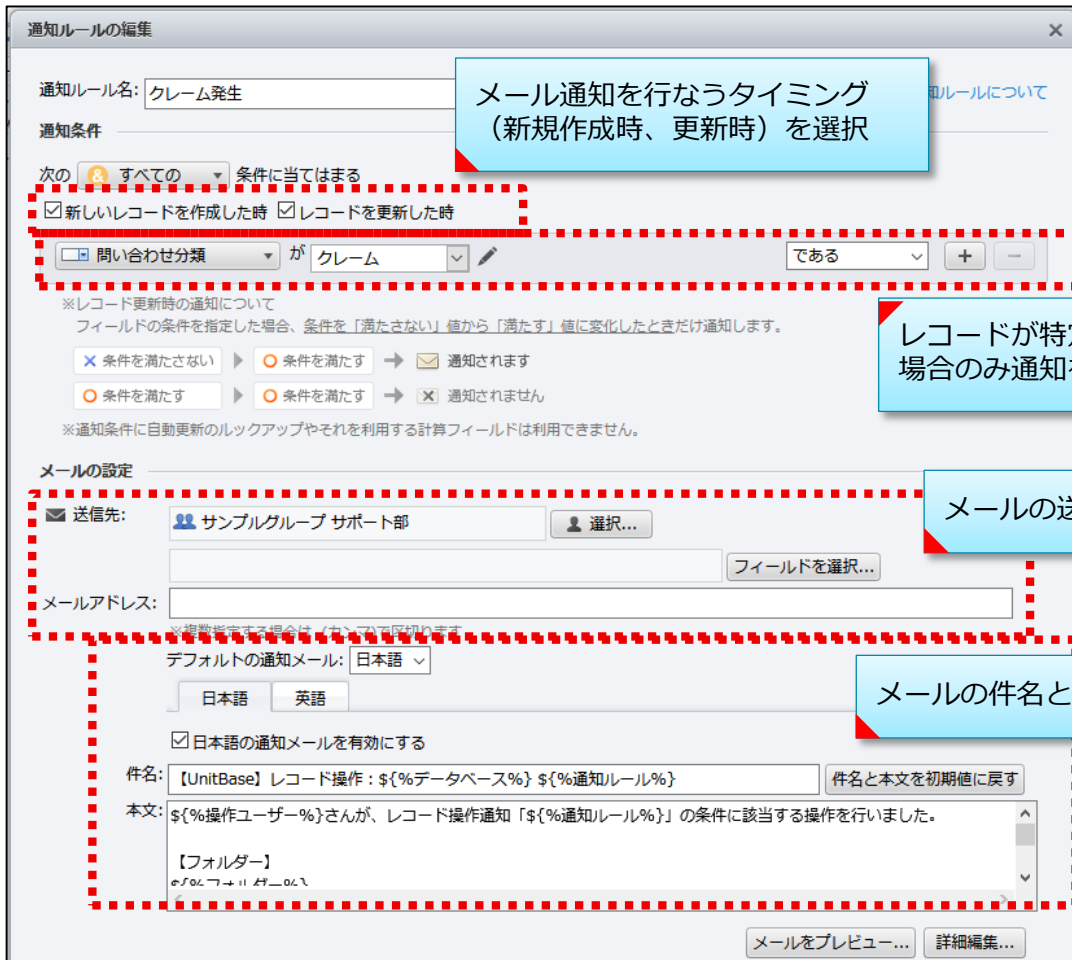
データベースにレコードの追加や更新がされたことをメールで通知することができます。単純なレコードの追加・更新を通知するほか、特定のフィールドが特定の値に変更された場合のような、条件を設定して通知することができます。



データベースのメニューから
[レコード操作通知] を選択



[通知ルールの追加] をクリック



メール通知を行なうタイミング
(新規作成時、更新時) を選択

レコードが特定の条件を満たす
場合のみ通知を行なうことも可能

メールの送信先を設定

メールの件名と本文を設定

メール通知機能

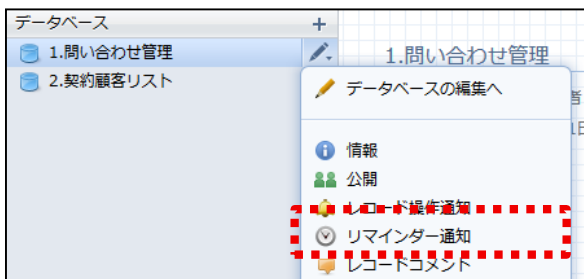
ユーザーへのメール通知

□ 期限を知らせるメールを送信する（リマインダー通知）

日付時刻フィールドに設定された値を基準として、その前後の日数または時間を指定しておく
と、メールで通知するように設定できます。

例えば、問い合わせ管理データベースなど期日を管理するデータベースで、期日の1日前や当日
に担当者にメールを送信することで作業漏れを防ぐことができます。

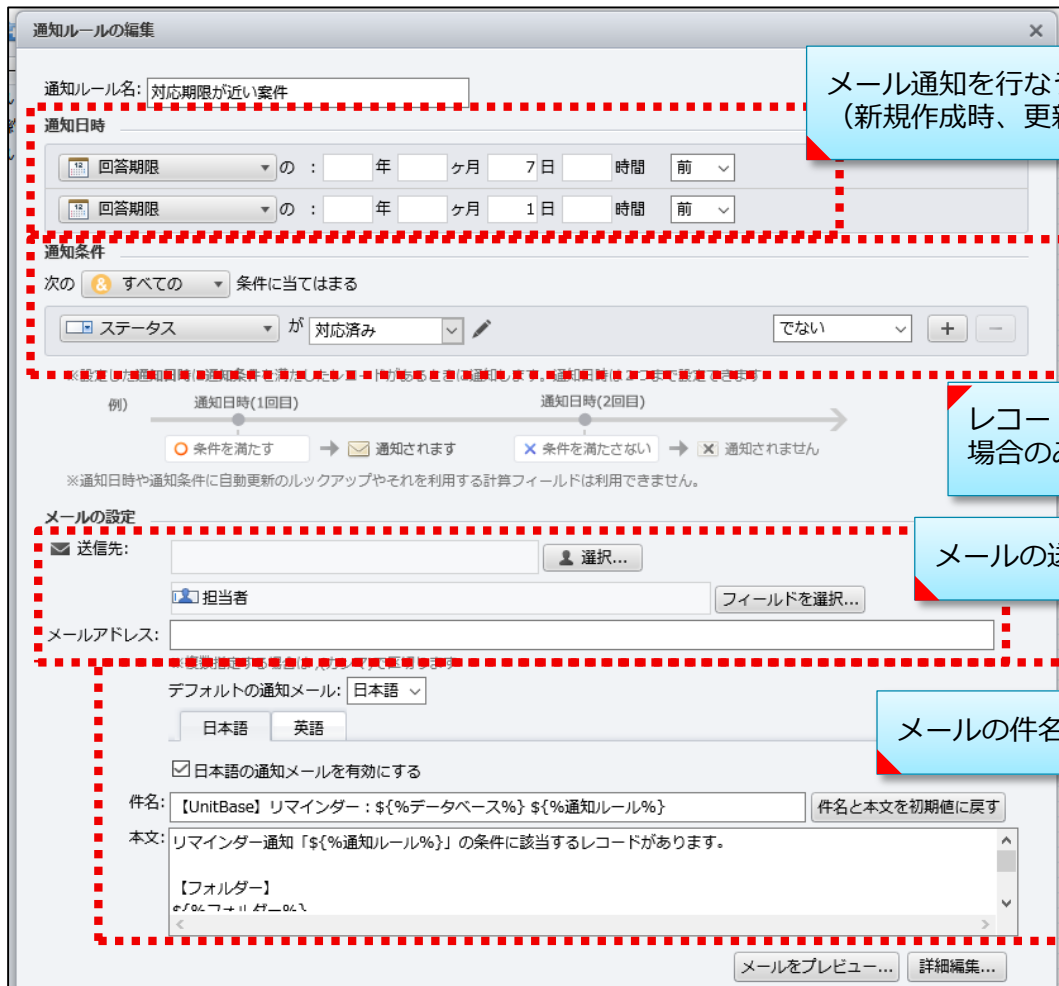
通知ルール条件には、日付時刻型のフィールドを2つまで、さらに任意のデータ型のフィール
ドを設定できます。



データベースのメニューから
[リマインダー通知] を選択



[通知ルールの追加] をクリック



メール通知を行なうタイミング
(新規作成時、更新時) を選択

レコードが特定の条件を満たす
場合のみ通知を行なうことも可能

メールの送信先を選択

メールの件名と本文を設定

メール通知機能

ユーザーへのメール通知

通知メールの内容をカスタマイズする

レコード操作通知とリマインダー通知のメールタイトル・本文は、通知対象レコードのフィールドの値を埋め込むなど、自由にカスタマイズできます。

例えばレコードの更新通知メールにフィールドの内容を埋め込むことで、メールを確認するだけでどういった更新が行われたのかを簡易的に確認することができます。

件名: 【UnitBase】レコード操作: \${%データベース%} \${%通知ルール%} 件名を初期値に戻す

本文: \${%操作ユーザー%}さんが、レコード操作通知「\${%通知ルール%}」の条件に該当する操作を行いました。

【フォルダー】
e f o l d e r

メールをプレビュー... 詳細編集...

通知ルール設定ダイアログの
[詳細編集] ボタンクリック

通知メールの詳細編集

件名や本文にキーワードを記入すると、そのキーワードに対応する内容が通知メールに反映されます。
※右側のキーワード一覧で、キーワードを選択して [←] をクリックまたはキーワードをダブルクリックすると、
件名や本文のカーソル位置にキーワードが挿入されます。

件名: 【UnitBase】リマインダー: \${%データベース%} \${%通知ルール%} 件名を初期値に戻す

本文: \${%通知日時%}

【通知条件】
\${%通知条件%}

【ステータス】
\${%ステータス%}

【問い合わせ内容】
\${%問い合わせ内容%}

下のリンクをクリックするかWebブラウザで開くかして内容を確認して下さい。
\${%URL%}

フィールド 其他

フィールドと対応付けられるキーワードです。

\$(ステータス)
\$(窓口担当社員)
\$(優先度)
\$(クレーム)
\$(問い合わせ内容)
\$(問い合わせ番号)
\$(受付日)
\$(回答期限)
\$(問い合わせ内容)
\$(問い合わせ番号)
\$(受付日)
\$(回答期限)
\$(問い合わせ内容)
\$(問い合わせ番号)
\$(受付日)
\$(回答期限)

既存フィールドを一覧から選択し
ボタンをクリックすることで
カーソル位置にキーワードが
埋め込まれる

メールの件名・本文を自由に
記述可能

OK キャンセル

\${フィールド名} と記述した部分が、送信される通知メールでは通知対象レコードに実際に記録されているフィールド値に自動的に置き換わります。

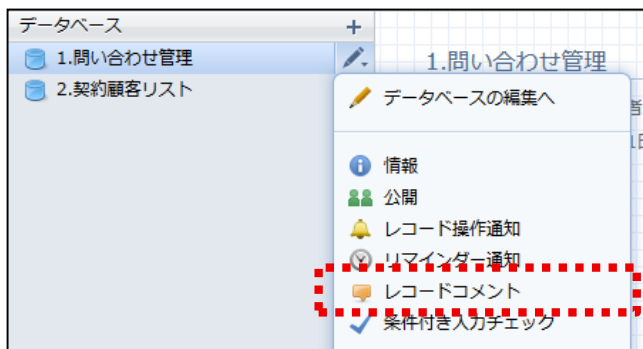
メール通知機能

ユーザーへのメール通知

□ レコードコメントが書き込まれたことをメールで通知する

レコードに新しいコメントが書き込まれたことをメールで通知できます。

常に特定のユーザー／グループに通知することもできますし、レコードの作成者／更新者や、データベース内のメールフィールド／ユーザーフィールドに入力されている相手に通知することもできます。



データベースのメニューから
[レコードコメント] を選択

データベース情報

情報 公開 通知 レコードコメント

? レコードコメントについて

レコードコメント書き込み時のメール送信先

☒ 送信先の自由な設定を許可

送信先: 選択... ☒ 常に送信

通知メール送信先として利用するフィールド:

送信先	フィールド	常に送信	初期値
☐	レコード作成者	☒	☒ 送信 ☐ 送信しない
☐	レコード更新者	☒	☒ 送信 ☐ 送信しない
☐	担当者	☒	☒ 送信 ☐ 送信しない

メールアドレス:

※複数指定する場合は、(カンマ)で区切ります

OK キャンセル

特定のユーザー／グループを
送信先にする場合はここで指定

メールフィールド／ユーザーフィールドの
入力値に通知する場合は、対象フィールド、
常に通知メールを送信するかどうか、
初期値を送信する・しないのどちらにするか
ここで指定

特定のメールアドレスを
送信先にする場合はここで指定

レコード変更履歴の保存

レコードごとの変更履歴を保存・確認

レコード単位で内容の変更履歴を表示・確認できます。

□ レコード変更履歴の有効化

レコード変更履歴の保存機能はデフォルトでは無効になっています。
利用する場合は、履歴を保存したいデータベースごとに設定が必要です。

□ レコード変更履歴の確認

変更履歴は、ビューアー画面の「変更履歴」タブから確認できます。

更新日時	更新者	操作	フィールド	変更前	変更後
2015/10/30 14:14:21	岡田 哲平	通常	ステータス 終了日	対応中	完了 2015/10/30(金)
			タスク詳細	〇〇製品の開発を行います。 設計が完了したので、開発に移ります。	〇〇製品の開発を行います。 開発完了しました。
2015/10/27 14:17:58	岡田 哲平	通常	担当者一覧	担当者 岡田 哲平 斉藤 豊	担当者 岡田 哲平
2015/10/24 13:34:38	岡田 哲平	通常	タスク種類 タスク詳細	設計 〇〇製品の開発を行います。 調査が完了したので、設計に移ります。	設計 〇〇製品の開発を行います。 調査が完了したので、設計に移ります。
2015/10/21 13:43:48	斉藤 豊	通常	添付ファイル		参考資料.xlsx
2015/10/18 12:41:19	岡田 哲平	通常	担当者一覧	担当者 岡田 哲平	担当者 岡田 哲平 斉藤 豊
2015/10/15 10:47:05	岡田 哲平	通常	タスク種類 タスク詳細	調査 〇〇製品の開発を行います。	設計 〇〇製品の開発を行います。 調査が完了したので、設計に移ります。
2015/10/12 09:10:51	岡田 哲平	通常	ステータス 開始日	未着手	対応中 2015/10/12(月)

レコードの変更履歴が表示されます

レコード変更履歴の保存

レコードごとの変更履歴を保存・確認

□ レコード変更履歴に保存される情報

レコード変更履歴には以下の情報が記録されます。

項目	内容
更新日時	レコードが変更された日時が表示されます。
更新者	レコードを更新したユーザーの名前が表示されます。
操作	変更時の操作が表示されます。操作には次の種類があります。 ● 通常 ● 一括編集 ● データインポート ● 一覧形式の取り込み ● 帳票取込 ● メール取込
明細行番号	変更された明細内フィールドの行番号を表示します。明細外のフィールドの場合は空欄となります。
フィールド	変更されたフィールドのうち、レコードの表示に使用しているレイアウトに存在するフィールドの名前が表示されます。
変更前	変更前のフィールドの値が表示されます。
変更後	変更後のフィールドの値が表示されます。



- ✓ 変更履歴を記録する状態から記録しない状態へ変更したときは、記録されている履歴情報はすべて破棄されます。
- ✓ フィールドを削除するとそのフィールドの変更履歴だけが削除されます。



- ✓ レコード変更履歴の保存を有効にすると、データ量が増大することから、UnitBaseのバックアップ・リストアの処理に時間がかかるようになる場合があります。

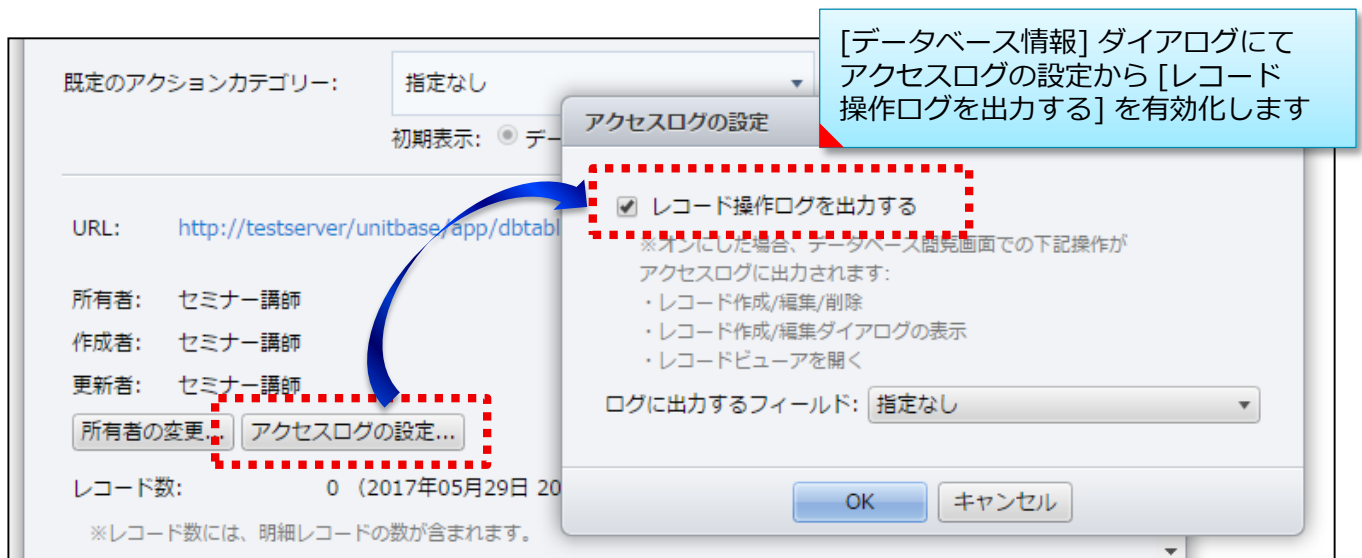
レコード操作ログ

アクセスログにレコード操作ログを記録する

通常のアクセスログに加えて、より詳細なレコード操作内容をログに記録することができます。

レコード操作ログの出力はデフォルトでは無効になっています。利用する場合は、レコード操作ログを記録したいデータベースごとに設定を行う必要があります。

※個人設定・管理画面でアクセスログの記録が有効になっていることが前提



アクセスログには以下の情報が記録されます。通常は1～10が記録され、レコード操作ログの出力を有効にすることで11～22の項目も出力されるようになります。

1	ログイン	12	レコードの編集
2	レコード一覧の参照	13	レコードの削除
3	カレンダーイベントの参照	14	一括編集
4	レコード一覧の保存	15	帳票の取り込み
5	レコードの印刷	16	メールの取り込み
6	クロス集計の表示	17	レコード作成／複製ダイアログの表示
7	クロス集計の保存	18	レコード編集ダイアログの表示
8	クロス集計の印刷	19	ビューアの表示
9	帳票の出力	20	一覧形式の取り込み
10	特定フィールドのレコード値の参照	21	レコードコピー（コピー元）
11	レコードの作成／複製	22	レコードコピー（コピー先）

機能抑制の設定

機能抑制によるセキュリティ向上

データベースのセキュリティを向上させるため、データベースごとに、次の機能の実行を抑制することができます。

- 一覧の保存
レコードの一覧や選択したレコード、クロス集計のCSV出力
- 印刷
レコード一覧やレコード、クロス集計の印刷画面表示
- 帳票
帳票の出力

機能抑制の設定

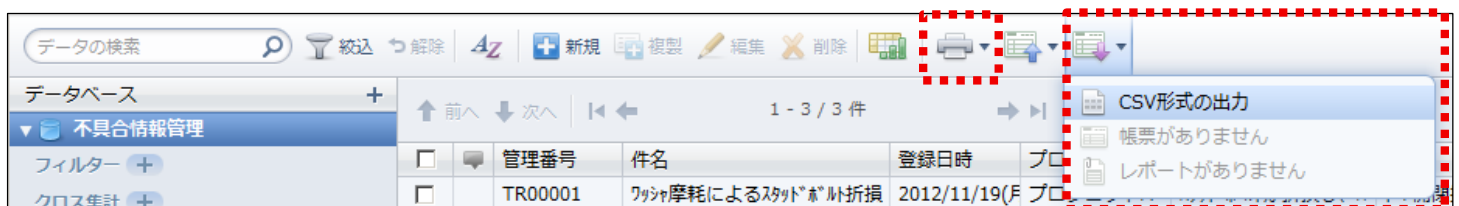
登録されたログインIDやIPアドレスからの実行だけを許可するホワイトリスト形式により、機能抑制を設定します。

許可対象のログインIDやIPアドレスは、機能抑制設定ファイルに登録します。
この設定ファイルはXML形式のファイルになっており、所定の書式に従って作成したファイルを、決められたフォルダに配置する必要があります。

設定ファイルの書式など、設定方法の詳細は「管理者ガイド」の「8.5. 機能抑制の設定」を参照してください。

機能抑制されているユーザーには、抑制された機能のボタン自体が表示されなくなります。

機能抑制されていないユーザー



一覧の保存と印刷の機能が抑制されているユーザー

印刷ボタンが表示
されない

